

MEIKAI UNIVERSITY

URAYASU CAMPUS | ALUMNI ASSOCIATION

vol.25
Dec.2019

明海大学
浦安キャンパス
同窓会報

SPECIAL ISSUE

“MEIKAI”リブランディングの今 — 大学創立50周年に向けて —

MEIKAI PEOPLE

多様な分野で活躍する《明海人》にインタビュー

MEIKAIブランディングサポート

《2019イベント事例》



CONTENTS 15

CLUB

女子バレーボール部

女子バレーボール部は、2019年度から体育会に変わりました。当初、部員が5人で、試合への出場も危ぶまれましたが、サークルの皆さまのご協力により試合出場に漕ぎ

着けることができました。関東大学8部Aリーグ（春）に参加し、全勝で7部に昇格し、東日本インカレ出場（6月・北海道、グループ戦敗退）、天皇杯皇后杯千葉県予選出場（7月・柏井高校、一回戦敗退）、と経験を積み、関東大学7部Bリーグ（秋）も全勝で6部に昇格を決めました。1年間で春・秋のリーグ戦で順調に昇格を果たせば、4年間で1部に届きます。目標は、「1部昇格」と「全日本インカレ優勝」です。

日々の鍛錬を怠らず、目標に向かい邁進して行く所存です。ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。（監督 太田豊彦）



CONTENTS 16

CLUB

ヨット部

今年も秋季関東学生ヨット選手権大会兼全日本インカレで、総合5位・470級4位・スナイプ級5位で9年連続全日本インカレの出場権を獲得し、去る10月28日から11月5日まで兵庫県西宮市新西宮ヨットハーバーで開催された第84回全日本学生ヨット選手権大会に、大学をはじめ同窓会・教育後援会の多大な支援をいただき、出場するこ

とができました。

全日本インカレ予選を兼ねている第86回秋季関東学生ヨット選手権大会では、スナイプ級が2位・470級が6位・総合4位で予選を突破し、全日本インカレに駒をすすめましたが、大会期間中の風に恵まれず、11レース実施予定が4レースのみで終わってしまいました。結果、総合10位・470級8位・スナイプ級はインシデンスを起こし、失格となったレースがあり大幅に順位を落としてしまい、14位という結果になりました。

春から順調に全日本で戦える力を備えてきただけに残念な結果となってしまいました。次年度も新西宮ヨットハーバーでイン

カレが開催されます。次年度こそ総合優勝を目指して頑張る所存であります。

平素から大学・同窓会・教育後援会の多大なご支援に対し、心から感謝申し上げます。（監督 國府田由隆）



CONTENTS 17

INFORMATION

■ ビジネス交流会開催予定

同窓生の輪を人的資源として有効に活用・共有し、ビジネスにおける問題解決や自己の向上を目的とした実践的交流会です。同窓生皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

ビジネス交流会

日時：2020年2月又は3月予定
（※詳細は同窓会Facebookならび@LINEにて追って告知致しますのでご確認ください）
場所：都内 参加費：¥2,000円 *学生無料
対象：会社経営者、個人事業主及び起業を目指している同窓生
同窓生同士のビジネス的な繋がりを求めている方
就活のためのスキルアップを目指す学生

■ お申込み方法

表題に「ビジネス交流会参加希望」と記し、「氏名」「学籍番号」「携帯番号」「業種・会社名」を明記し、info@meikai.com までお申込みください
*日時、場所の詳細は、明海大学浦安キャンパス同窓会HPやオフィシャルFBでご確認ください

詳細・最新情報はこちらから

明海大学浦安キャンパス同窓会 公式Facebook
https://www.facebook.com/Meikai.dosokai



■ 「コミュニティサポート事業」～同窓会の集まりに最大6万円の支援

同窓会員同士のコミュニティ作りのお手伝いとして、補助金をお支払いするサポートシステムをはじめます。同窓生が集まるパーティー、部やサークルのOB・OG会などの際にご活用下さい。

サポート条件

- 原則として会員が10人以上で集まるコミュニティであること。
※支援対象者は会員のみとなります。
- パーティーや活動終了後、レポートと参加者名簿を提出すること。
※レポート・名簿ともに規程フォーマットに記入していただきます。
※レポート・写真は、HPや会報に掲載させていただくことがあります。予めご了承下さい。
※参加者名簿は、本会のプライバシーポリシーに準じて活用いたします。
- 宗教や政治活動を目的とするコミュニティは対象外となります。
- 支援は年度内1回のみです。（同じ人が年2回受けることは出来ません）

支援金

3,000円/人 ※上限60,000円（20人相当）
ex：参加者15人→45,000円支援 参加者25人→60,000円支援
※詳しくは同窓会ホームページをご確認ください

■ 引越いや結婚など、 同窓会会員登録情報に変更はありますか？

会員の皆さまの情報を把握するために、ホームページ上で登録変更受付をしています。会員情報は会員の皆さまへの会報や、お知らせをお届けするための連絡先となるものです。情報が変更になった場合は速やかに変更をお願いします。

同窓会ホームページ

http://www.meikai.com/ 「会員登録情報変更」

編集／発行 明海大学浦安キャンパス同窓会 279-8550 千葉県浦安市明海1
tel:047-355-5112 fax:047-355-2871

mail:info@meikai.com
http://www.meikai.com



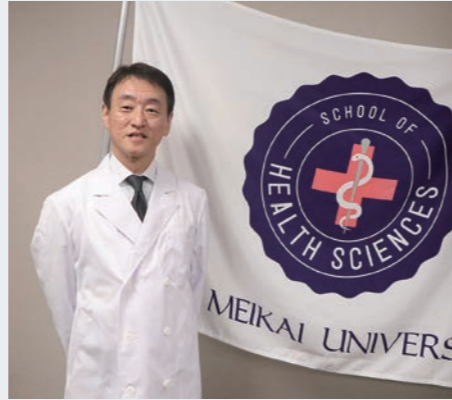
MEIKAI PEOPLE / ACADEMIC

2019年4月、東日本の私立大学で初となる4年制歯科衛生士養成課程「保健医療学部口腔保健学科」が開設された。学部長には、横浜市立大学名誉教授で神奈川県立歯科大学副学部長も務めた藤内祝氏が就任。本学の前身である城西歯科大学を卒業した藤内氏は、口腔癌領域の手術・化学療法・遺伝子治療のほか、抗がん剤と放射線治療を組み合わせた「切らない治療」に取り組む、口腔癌治療における第一人者として知られる。

現在、全国で172ある歯科衛生士養成機関のうち、4年制課程を設けるのは12機関しかない。開学以来、6千人以上に及ぶ歯科医師を輩出してきた本学が、新学部開設に至った経緯は2つあるという。1つは、歯科衛生士の数が全国的に不足しており、育成を望む社会の要請にこたえるということ。もう1つは、ここ数年で複雑化した歯科衛生士の業務内容に対応するため、より専門的な知識と人間性を併せ持った歯科衛生士を育成すること。2012年に周術期口腔機能管理(※)が保険導入されたことで、歯科衛生士を取り巻く環境は一変した。「口腔ケアが、がん治療の支持

ACADEMIC

保健医療学部新設
時代のニーズに応える新たな学部
藤内 祝学部長



療法の1つとして認知されるようになり、歯科衛生士のニーズが「一気に高まった」と藤内学部長。また近年、社会的にも口腔環境と全身疾患の関係について取り沙汰されることは多く、中でも歯周病は、糖尿病、動脈硬化、肝炎、認知症などとも関係すると言われている。そのため、「これから歯科衛生士の就職先は大学医学部病院、基幹病院、がんセンターなど多岐に渡るようになる。歯科界全体のグレードアップを考えると、歯学部と保健医療学部の2学部設置は必須だった」と藤内学部長は語る。

さらにこれだけに留まらず、本学ならではの取り組みとして、「接遇」という視点からホスピタリティ・ツーリズム学部と合同講義を行い、学部を横断した授業を展開。患者に寄り添うホスピタリティの精神と実践についても学んでいく。「浦安キャンパスに初めて医療系学部が入ることになり、本学の前身が医療系にあるというルーツも広く再認識してもらえるのでは」と藤内学部長は結んだ。

不動産学部、ホスピタリティ・ツーリズム学部と、都度、時代のニーズに先回りした「人材育成の場」を提供していく本学は、そのオリジナリティ溢れる学部展開が広く知られるところだが、さらに今回の保健医療学部の新設により、そのキャラクター、ブランディングを確固たるものとし、より一層の差別化を実現したと言える。

※主にがんなどの治療の前後、感染症・合併症など防ぐ目的で医師とは別に歯科が連携して入院前・後に至るまで患者の口腔機能の管理・ケアを行うこと

ACADEMIC

イグ・ノーベル賞受賞
明海大学とイグ・ノーベル賞の不思議な縁
保健医療学部 渡部 茂教授



保健医療学部の渡部茂教授をはじめとした5人の研究チームによる論文「5歳児の1日当たりの総唾液分泌量の推定」が、人々を笑わせ、考えさせる独創的な研究に贈られるイグ・ノーベル賞の化学賞を受賞。論文は典型的な5歳児の唾液の総量を研究したもので、口腔環境と唾液の関係に関する研究の基礎となった。虫歯予防に重要な役割を果たす唾液の研究は少なく、発表から30年近く経った今も世界中の研究者に引用されているという。渡部教授が論文を発表したのは1995年。本来この論文は、「子供の唾液の総合的な研究」という大掛かりなものとしてまとめる予定だった。しかし、ちょうど同じ頃に明海大学の教授就任を控えていたため、論文規模を縮小して今回イグ・ノーベル賞を受賞した仕様に変更していったのだ。

「もしも明海大学の教授に立候補していなければ、この賞をいただくこともなかったかもしれません。とても不思議な縁を感じています。実験は30人の5歳児を対象に行いましたが、お子さんによって食べ方も違い、向き不向きもある。そのため研究には4年という長い年月を要しました。しかしそれが今こうして注目を集めるということは、非常に幸運なことです。歯科という狭い領域の中でも、唾液の研究というのは非常にマイナーな分野です。歯科医は口腔環境にとって唾液が大切なことは十分理解してはいますが、それが臨床に活用できていないのが現実です。唾液は変動が大きく個人差もあり、さらにその個人の中でも変動があるため、なかなか個人の代表値が特定できません。今後は臨床に活用できるような、虫歯の予防につながる唾液の検査ができればと考えています」

カナダに留学していた頃に訪れた思い出の地ボストンで、家族とともに授賞式に臨んだ渡部教授。現地では、5歳のとき被験者となったご子息を含む3人の息子たちも急遽壇上に上がることになり、当時と同じ「バナナを食べる」という実験を行った。毎年あらゆるジャンルから九千編もの論文が推薦され、受賞者が決定するイグ・ノーベル賞。その中で歯科医師として初の受賞となった喜びも大きいと渡部教授は語る。世間での注目度も高く、連日メディアでもとりあげられた今回のニュース、明海大学の認知度を飛躍的に上げたことは間違いない。

“MEIKAI”リブランディングの今
— 大学創立50周年に向けて —

2020年、明海大学は創立50周年を迎える。同窓会は発足以来の「母校をサポートする」というテーマに具体性を持たせてアップデートを続け、2009年に実施した「同窓生意識調査」を皮切りに、その後約10年間に渡って母校のリブランディング・価値向上を目指すあらゆるサポートプロジェクトを大学と共に展開してきた。今回は、この大学ブランディングで特に寄与する人物にフォーカスしたインタビュー「MEIKAI PEOPLE」と、同窓会主導の「ブランディングサポートプロジェクト事例」にスポットを当てて紹介する。

CONTENTS 01

MEIKAI PEOPLE / ENTERTAINMENT

ENTERTAINMENT

在学当時の楽曲でデビュー
シンガーソングライター 指田フミヤ氏
(2008年度経済学科卒)



「このキャンパスで生まれた曲はたくさんありますし、自分が大切な時期を過ごした母校の名前が広まることは嬉しいですね」

浦安キャンパスの円形ステージから講義棟を懐かしそうに見上げつつ、そう話すのは、本学出身のシンガーソングライター、指田フミヤ氏だ。2008年に大学を卒業した指田氏は、2010年ワーナミュージック・ジャパンが開催したオーディションに応募し、グランプリを獲得。大学時代に作った「DREAM/夕焼け高速道路」で翌年メジャーデビューを果たし、その後もリスナーの心に訴えかける数多くの曲を世に送り出してきた。なかでもドラマ主題歌として書き下ろされた、のちにフィギュアスケートの羽生結弦選手がエキシビジョン曲として起用した《花になれ》は既知の方も多かった。

学生時代は、キャンパス内のベンチでギター片手に曲作りを行い、明海祭ではバンドで出演、模擬店での販売もしていたという。最近ではメディアでも積極的に

明海大学出身であるということに触れているという。

「入学前に明海大学を初めて訪れた時、ひと目でこの開放的なキャンパスが気に入りました。」

在学中に制作した楽曲で念願のメジャーデビューを果たし、ミュージシャンとして着実にキャリアを積んできたが、まだ「夢を追っている最中だとも語る。「夢は待っているだけでは叶わない」というスタンスで、デビュー後もさまざまなチャレンジを続けてきたが、最も大きな転機となったのはアメリカでの音楽活動だ。

「事務所を移籍するタイミングで、数年間自由に動ける期間がありました。思い切って渡米したことで、現地でバンドを組んで演奏したり、とにかく自分の中で音楽への向かい方の幅が大きく広がりました」

今回、明海祭の初日に10年ぶりに母校へ帰り、bayanの公開録音でパフォーマンスを披露した指田氏。プログラム中でコラボレーションしたジャズオーケストラ部が、今はプロのミュージシャンとなった自分と演奏できたことに対して喜んでいう姿と、彼らの「音楽との向き合い方」を目にして、感慨深いものがあつたという。「音楽をやることに対しては決して無理をせず、いつまでも好きという気持ちを持って続けたい」と語る指田氏。こうした卒業生の活躍、そして本企画のような「reunion (再会)」の積み重ねこそが、明海大学の認知、ブランディング向上に着実に結びついていくことだろう。

VISION

M.Aビジョン (MEIKAI Alumni Association Vision)

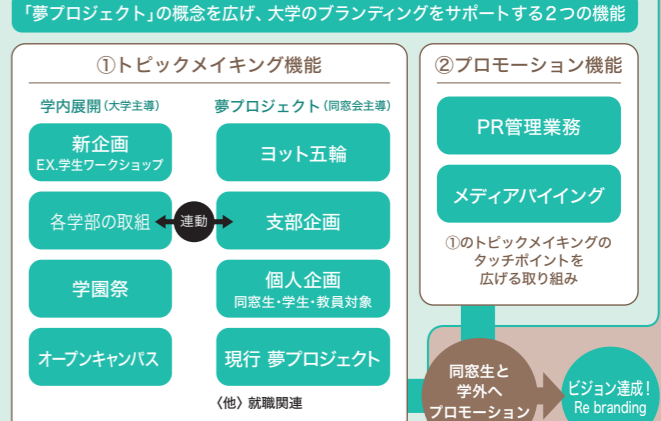
明海大学は…
「入学を勧めたい大学」
明海大学は…
「自分の子どもを入学させたい大学」
そんな大学になって欲しい!!

～この願いの実現は、同窓生共通の思い～
では、どんな大学が望まれているのか?

- ①夢がある ②特色がある ③就職に強い
- 建学の精神(社会性・創造性・合理性)に基づく人間力の強化と関連する。

ACTION

夢プロジェクトを起点にしたブランディング構想図



同窓会ブランディングサポートのイメージ

MEIKAIブランディングサポート《2019イベント事例》

同窓会が大学・学生・企業などを繋ぐ「ハブ」となり、様々なジャンルにおいて大学ブランディング向上に向けたイベントが企画・実施されている。今回は明海祭で行われた《音楽》《アウトドア》《カードゲーム》という3つのジャンルのイベント事例をレポート。



昨年引き続き、今年の明海祭においても「bayfm」の「あしたの音楽」とのコラボ企画が行われた。本企画の始まりは、北原淳同窓会長がある日耳にした「あしたの音楽」の放送。番組内ではちょうど、夢をつかもうというテーマのもと、オリジナル楽曲制作の真只中だった。その趣旨と曲に共感した北原会長は、すぐbayfmにアプローチ。すると、偶然にも番組ディレクターが同窓生ということが分かり、トントン拍子で話が進んだ。

2回目となった今年も、明海祭初日に公開録音を実施。番組パーソナリティーを務めるSusumuさんと曾根田希江さん、そして明海大学からは吹奏楽部とジャズオーケストラ部が参加。ハイライトとなったのは、スペシャルゲストとして登場した明海大学OBのシンガーソングライター（指田フミヤ）さんと、7人組ボーイズグループ（祭nine）のパフォーマー。指田さんは代表曲「花になれ」のほか、ジャズオーケストラ部とともに「Fly Me To The Moon」を披露。後半は祭nineが激しいダンスで会場の熱気を最高潮に持っていく。公開録

EVENT REPORT bayfm コラボレーション 「あしたの音楽」公開録音



音という場でプロと一緒に演奏するという夢を叶えた学生の面々は、みな楽しみながら、やりきった表情を見せていた。

「同窓会は、夢」をメインのテーマとして活動しているが、この公開録音はそれを分かりやすく目に見える形で訴求できるエントリーイベント。夢というテーマを広めていくためにも今後も続けていきたい」と北原会長は語った。



今年の明海祭の会場は、どこかいつもと違う活気にあふれていた。それを担ったのが、丘の上の芝生スペースで行われたピクニックフィールド企画。明海祭実行委員長の橋本和海さんは、以前から明海祭を地域住民との交流の場にしたと考えていたという。そこで今回、自身が影響を受けた野

EVENT REPORT ピクニックフィールド企画 @浦安キャンパス



外の映画祭や音楽イベントをヒントにしながら、キャンパス内に魅力的なアウトドアイベントスペースを作り上げた。会場には浦安エリアで人気の飲食店やショップを誘致し、ワークショップやアクティビティも開催。ゆったりと過ごせるハンモックエリアのほか、夕方以降は大型スクリーンで映画を上映するアウトドアシネマも開催。丘の上を1つの野外イベント会場に見立てたこの狙いは見事に当たり、期間中は実に多くの家族連れや夫婦でにぎ

MEIKAI PEOPLE / SPORT

SPORT

女子バレーボール部始動 明海発の五輪、W杯選手輩出を目指して 太田豊彦女子バレーボール部監督



2019年4月より、新たに体育会に女子バレーボール部が創部された。この度の創部は、プロバレーボールチーム「株式会社ヴィクトリーナ姫路」との連携協力協定によるもので、監督にはU-20日本代表チーム監督などを歴任し、世界で活躍する選手を指導した豊富な経験と実績を持つ太田豊彦氏が就任。共栄学園高等学校女子バレーボール部監督として、春高バレー優勝2回、インターハイ優勝2回を果たすなど、全国屈指の指導者として知られる太田監督が、大学1部リーグ昇格、五輪・プロ選手輩出という目標に向かって指導を行う。

「入学時はたとえ力がなくても、己を高め、4年間でしっかりとした目標を持って社会に出ていく力を身につけて欲しい。バレーボールをやりたくて入学してきた学生も、勉強との両立に励み、他の学生にも影響を与えるようなキャンパスライフを送って欲しい」と太田監督は話した。

さらに学内では、株式会社ヴィクトリーナ姫路の協力により、高校生を対象とした「バレーボール教室in明海大学」を2019年7月に実施。講師として元バレーボール女子日本代表の友愛氏を招聘し、本格的な指導が行われた。さらに発展的には同チームとの提携という面で、卒業生が選手やスタッフとして株式会社ヴィクトリーナ姫路に勤務することなども視野に入れているという。バレーボールが盛んで競技人口も多い千葉県、この分野からも明海大学の存在を存分にPRしていく。

勝ち残るためには、ディフェンス力の高いチームであることがポイントになってくるため、今後は地道にディフェンス力を上げていく予定だ。

来春は6部リーグからのスタートとなるが、「2022年の1部リーグ昇格を狙うとともに、1部昇格の達成前に全日本インカレ

SPORT

ヨットチーム活動報告 五輪への道、見据えた未来 林優季選手・西代周選手



(左: 西代周選手 右: 林優季選手)

近年強豪校の一角として認知されるようになった本学ヨット部から生まれた「明海大学女子セーリングチーム」。大学や同窓会のサポートを受けながら、2020東京五輪に出場を果たすという夢の実現に向け、ここまで実にシビアな挑戦を続けてきた。

2017年4月に結成された本チームは、メインセーラーと舵取りを担当する、スキッパーの林優季（2016年度経済学科卒）、ジブセラー&スピナーカーといったサブの帆を担当する、クルーに西代周（立命館大卒）、そして北京オリンピック出場経験のある松永鉄也（同志社大卒）の3人だ。

在学中から注目されていた林選手だが、当時コンビを組んでいたクルーは小柄であったこともあり、そのままのチーム編成でトップレベルの試合において五輪を目指す事は現実的に難しかった。そこで新たなクルー探しを行い、身長178cmと恵まれた体格の西代選手とのチーム結成に至った。チームは世界で戦うための土台作りとして、強化合宿や国際大会に積極的に参加

フィジカル面での強化も行った。セーリングの主な国際大会としてはワールドカップシリーズ、470級世界選手権、プリンセスソフィア杯などがあり、林・西代組はこれらの大会のすべてに出場して世界レベルでの経験を積み、技術を磨くとともに、国内では江ノ島・蒲郡・座間味などで年間を通しての強化合宿に取り組んだ。約2年間に及ぶこうした強化に努め、いよいよ東京五輪代表選考に向けて挑戦の年を迎えた。

東京五輪代表は、第50回プリンセスソフィア杯（スペイン）と470級世界選手権2019@江ノ島、そして2020ワールドカップ第1戦江ノ島大会の3大会の合計ポイントで決まる。ただし、470級世界選手権2019@江ノ島で選考チームが3位以内に入った場合、その時点で当該チームが代表に認定され、選考は終了するというものだ。

代表選考第1戦となったプリンセスソフィア杯では、林・西代組はスタートを成功させ、良い展開をキープ、日本人2位という好成績を納める事に成功。しかし続く第2戦となる470級世界選手権2019@江ノ島で大きな壁が立ち上がった。このクラスで過去に何度も五輪代表となった経験のあるベテランのベネッセチーム（吉田・吉岡組）が、2位入賞。本大会3位以内で代表内定ということ、惜しくもこの時点で後の大会成績を待たず林・西代組の望みは絶たれてしまった。

あと一歩のところで惜敗した林選手は、今、大学ヨット部の國府田監督とともに、後進の指導にあたっている。自分が目指した夢を今度は後輩たちに追いつけてほしいと、違った形で夢の続きを目指すことが、彼女にとっての新たな《夢プロジェクト》となった。



この夢の実現に至るまでには多くの壁があったという。そこでサポートにあたったのが同窓会だった。夢の実行にあたり、自分たちにまだない知識と経験を求めていた実行委員会は、企画の実現に向け同窓会から多方向でアドバイスを受けた。経験の少ない学生だけでは成功しなかった今回のイベント。同窓会では、こうした学生の夢の実現をさまざまな角度からサポートしている。



経済学科支部同窓会では、同支部会長である鮫島伸一氏が中心となり、トレーディングカードゲームのイベントを通じて大学をPRする数々のプロジェクトを続けていた。昨年は明海大学の学生が企画協力という形で入ったゲーム関連イベントのほか、カードゲームに触れ学べる「カードゲームアカデミー2018」を明海祭で開催。今年はその規模をさらに広げ、トレーディングカードゲームの総合フェス「TCGフェスティバル」を明海祭で開催した。学園祭実行委員会と企業がタイアップする形で行われた本イベント。期間中は講義棟の5階をワンフロア丸々貸し切り、学生出展によるポケモンカードゲームのコーナーや、カードをアートとして楽しむ立体カードの展示、講師を招いた業界セミナーのほか、来場者が持参したゲームで自由に対戦できるフリーエリア、トレーディングカードゲームの歴史を辿ることのできる展示コーナーなど、ライトコアな層まで幅広く充実の内容が盛り込まれ、2日間で約1,000人が参加した。

EVENT REPORT カードゲームフェスティバル in 明海祭



ずと言っているほど何かしらのカードゲームで遊んでおり、カードゲームそのものが立派なカルチャーとして確立している。実際にそうした世代の子に大学現地に足を運んでもらい、面白いことをやる大学だ、ということを知って貰えれば、明海大学にとって大きなPRに繋がっていくのでは」と話す。ターゲット世代に向けた同窓会の大学PRは実に多岐に渡った展開を見せている。



CONTENTS 03 2019 夢プロジェクト 審査会&報告会



今年も明海祭初日の11月2日に「夢プロジェクト審査会&報告会」が開催された。この催しは、学生の夢の実現に向け同窓会が上限100万円の資金援助およびサポートを行うというもの。今年度の応募4チームがこの日のために練り上げたプレゼンテーションを行った。トップバッターは「学生向けの学生による賃貸仲介業務」を企画した「Promising Youths」の面々。学生は不慣れな不動産探しや契約に関して不安を持っている。そこで、同じ学生でおかつ宅建士の資格を持つメンバーが、気軽に相談に乗り部屋探しのサポートをしようという、いかにも不動産学部にらしい企画。続いて登場したのは、ちびデブ海賊団なるグループによる「同世代に伝えたい! 海外の魅力と道の体験」という企画。海外旅行に興味を持つ学生が減っているの、自ら企画した海外旅行をSNSで発信し、帰国後は旅の記録を小冊子にまとめて配布したい...とのこと。企画内容もさることながら、コント仕立てのプレゼンがユニークで注目を浴びていた。



本誌の発行時点では最終結果は未決定となるため、後出の《夢プロジェクトHP》で、ぜひその結果と進捗を見届けていただきたい。

「MEIKAI COMMUNE VILLAGE」。卒業を控え自ら過ごした「大学生生活」の実感を元に、大学内に居心地のいい「居場所」を作ろうというもの。在学生アンケートを取って見たところ、食堂が混んだりするというので、実に3分の1の学生が昼休みを学外で過ごしていた。これを解消するのに広い芝生広場に着目。キッチンカーなどを導入し、憩いの場を作ろうという提案ゆきゆきはライブなどを張りキャンのよきな展開も検討しているという。最後は「ハタチ」による「届け! 若者に! 日本の旅館業の魅力 - 旅館を独り占め」。日本旅館の素晴らしさを、旅館に泊まったことがない学生や留学生に理解してもらおうことを目的に、気兼ねなく楽しめるよう貸切にして泊体験してもらおう...というもの。インターンシップで旅館での仕事を経験したメンバーによる企画だけに、就職先の候補としても見て欲しいとのこと。創造性、独自性、計画性、合理性などの観点から審査した結果、「COMMUNE」と「ちびデブ海賊団」の提案に評価が集中した。ただ、細部をさらに詰める必要があったため、修正した上で、再審査を行うことになった。しかし、基本的には、この2グループの企画を実施する方向だ。

CONTENTS 04 ALUMNI MEETING ホームカミングデー



明海祭初日の11月2日、学内のレストラ「ニューマリンス」にて、同窓会主催のパーティー「ホームカミングデー」が開催された。年に一度、卒業生が母校に帰り、それぞれ旧交を温めたり在学生と交流するなど、卒業生個々人のみならず大学や同窓会全体にとつても意義ある催しだ。今年も司会を務めるのは、同窓会の平松健太郎副会長。冒頭の安井利一学長の挨拶では、来年が創立50周年を迎える記念すべき年であり、今春から東日本の私立大学で

は初となる4年制大学での歯科衛生士養成課程「保健医療学部口腔保健学科」がスタートしたこと、さらに女子プロバレーボールチーム「株式会社姫路ヴィクトリーナ」と連携した女子バレーボール部が創部されたことなどが報告された。続く北原淳会長による乾杯で歓談がスタート。パーティーは卒業生のみならず、その家族も参加対象となっているため、会場には子どもたちの歓声があふれ、さながらママ会のような雰囲気も。また、会場には卒業生の恩師である先生方も顔を出され、それぞれの学年や学部の仲間と輪になりながらも、そこを越えた新たなコミュニケーションも次々と生まれていく模様。話題は過去、現在、そして未来にと、いくら語っても尽きないまま終了時間いっぱいまで大いに盛り上がりを見せていた。



CONTENTS 02

TOPIC REPORT 動画による大学PR企画 ～明海仮面～



突如現れた謎の「明海仮面」とは...。実はこちら、不動産学部同窓会・緑風会による「レッドカーペット大作戦」というPRプロジェクト内の企画。ターゲット年齢層に興味を持ってもらいたい。動画、チャンネルに着目。オープンキャンパスへの誘引、また、不動産学部での「不動産だけでない学び」という多様性をPRするために作られたオリジナル動画。能の面を付けたスリッパの明海仮面が、受験生の悩みに答えていく...というシチュエーション。緑風会ではこちらの動画だけでなく、クリアフォルダや可愛いイラスト付箋など、さまざまなPRグッズを展開し、一風違った角度から大学のサポートを試みている。ちなみにこの「明海仮面」の動画は、YouTubeや不動産学部オープンキャンパス特設サイトなどで見ることができ、これに先立って舞浜の映画館「シネマイクスピアリ」において、本編上映前の「シネアド」として上演された。今後の明海仮面の活躍にも期待!(P08支部レポートにも詳報)

「明海仮面」動画はこちら→<https://www.youtube.com/watch?v=3sV-Jar9EdM>

明海大学 夢プロジェクトの 新webサイトがオープン

同窓会では、《夢プロジェクト》の発信力を高めるとともに、学生自身のみならず、学生たちの無垢な「夢」へのチャレンジを同窓生の皆さまにも感じて頂くことで、大人となった今だからこそ、今の自分が大学に、そして後輩たちにしてあげられることを発信する、そのきっかけにしたいとの思いから、このたび夢プロジェクトHPを新たに開設しました。

私たちは「夢」というキーワードを媒介にして、同窓の皆さまと再会できることを心待ちにしています。(※HPにて、同窓生の皆さまに《夢プロジェクト》ご協力をお願いの詳細がございます。ぜひ一読ください)



支部レポート

日本語学科支部

本年度の活動報告

代表 升谷旭杜

本年度、日本語学科支部は新たに3人の役員を加え合計6人で運営を行いました。

役員の間も前年に比べ厚くなり、同窓会支部運営に深みが出て来ていると感じています。役員同士で多くの同窓生に参加してもらえるよう、議論、行動をしています。

本年の支部同窓会は今年できたばかりのハイアットプレイス東京ベイにて行われ、30人の同窓生が参加していただきました。この中には第1期の同窓生や、同窓会支部代表など幅広い方々が参加していただきました。

来年度に向けましては、規模の小さいミニ同窓会のようなものを企画運営していきます。

日本語学科同窓会支部についてなにかあれば、nihongo.meikai@gmail.comまでご連絡をお待ちしています。



明英（英米語学科支部）

懇親パーティー報告

代表 川部 翔

今年度は、恒例の懇親パーティーを7月6日に、舞浜イクスピアリ内のロティズハウスにて行いました。今年度のパーティーには過去最高の100人以上の参加者がありました。恩師の先生方や久しぶりに会うご友人とのひと時を、美味しい料理とともに楽しんでいただけたと思っております。毎年のお楽しみにしてください。時間も長くはならないように、企画をいたします。

2月のセミナーでは樋口倫子准教授より、「Well-beingのためのレジリエンス」というテーマでお話いただく予定です。引き続き、ご支援のほどをよろしくお願い申し上げます。



中国語学科支部

今年の懇親会は2月2日

代表 川島信一

今年度もオープンキャンパスへの役員派遣、HSK補助と懇親会の3つの事業を行っております。

毎年旧正月の時期に行う懇親会ですが、今年度は2月2日、12時30分から決まりました。

卒業生同士のコミュニケーションにお役立てください。詳細はハガキにてご案内いたします。

経済学部支部

ブランディングサポートへの取り組み

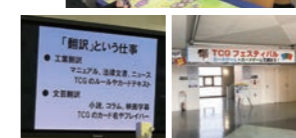
代表 鮫島伸一

こんにちは、代表の鮫島です。さて、今年度の支部活動の目玉は、なんと言ってもブランディングサポート活動です。

11月2日3日、明海祭に合わせて、支部理事会・明海大学・学園祭実行委員会の3者合同企画として、カードゲームのイベントを行いました。

2日併せて、1,000人近い集客を行い、中学・高校生を含むカードゲームファンや、地域住民の皆様楽しんで頂きました！

知名度向上とともに、母校が楽しい大学であると認知されるよう、今後も頑張ります。ご支援よろしくお祈りいたします！



緑風会（不動産学部支部）

「明海仮面」がついに映画館デビュー

代表 小畑昌也

昨年大反響をよんだ「明海仮面」。今年はなんと、浦安市舞浜にあるシネマイクスピアリの「シネアド」で上演しました！「シネアド」とは、映画上映前にスクリーンに流れる広告のこと。

内容は、先に制作された不動産学部をモチーフにした動画「明海仮面」の紹介映像。まるで映画の予告編のような作りで、画面ではオープンキャンパスの開催日なども告知されたほか、「明海仮面」がミステリアスに描かれ、続きが気になる仕掛けが。このシネアドはシネマイクスピアリの16スクリーン全ての上演回で流れました。

インパクトのある「明海仮面」が、高校生に人気のある映画の前に上映されることで、オープンキャンパスや不動産学部を強く印象付けることができました。今後、この映像を見て明海大学に入学したという学生に会うのが楽しみ。まだ「明海仮面」を見ていない方は、ぜひオープンキャンパス特設サイトからご覧ください。（緑風会HPにリンクあり）

明翔会（ホスピタリティ・ツーリズム学部支部）

11周年記念パーティーを開催します！

代表 高木弘和

明翔会も皆さまのお陰で11周年を迎えることができました。昨年は10周年パーティーを帝国ホテルで開催し多くの卒業生に参加して頂くことができました。

今年も同窓会パーティーを2月に開催いたします。去年に負けない盛大なパーティーを企画していますので、学生時代を思い出しながら楽しく集まりませんか？近況報告の場としても最適です。1人でも多くのご参加をお待ちしています。参加のご連絡は招待状より、またはSNSにてよろしくお祈りいたします。

また、昨年に引き続き卒業生インタビューもFacebookに掲載しています。今年もInstagramとTwitterも連動させておりますので、皆さまの使いやすいツールで是非ご覧ください。

CONTENTS 06
MESSAGE

恩師からのたより

副学長・経済学部教授
佐々木 康史

企業の現場で、大学（経済学部）で学んだマイクロ経済学の知識・技能やものの見方はどのような形（思考のしかた）でビジネスに役立つのだろうか。そう聞くと、多分、経済学部同窓生の多くの人にとってマイクロ経済学は抽象的で具体性に欠け、どう役立つのか分からないというのが実感だろう。ところがマイクロ経済学の最前線はこの15年で様変わりしました。デジタル社会（ソサエティ5.0・個人・企業・公共の場でデータの利活用が加速的に増え、データが社会全体を動かす原動力となる社会）の今、ビジネスと政策の現場で「実証マイクロ経済学を応用したデータ分析」が大変注目されています。その背景には、個人・企業・公共の場で、顧客・商品レベルの詳細なかつ膨大なマイクロデータを入手し蓄積するコストが大幅に低下し、分析手法が著しく進展したことがあります。

身近なマーケティング分野では、4Pと呼ばれる商品開発・価格設定・販売促進広告・流通の各戦略で、顧客・商品データに基づく戦略的意思決定がされています。例えば商品の価格付けにおいては、ダイナミックプライシングと呼ばれる分析方法（機械学習の最適化の技術）を用いて、各時点の需

要と供給のデータに基づいてホテル、航空コンサート、スポーツ等のチケットの顧客別の価格付けなどに利用され、時間を通じて価格を調整しています。

私の専門領域でマイクロ経済学の応用分野である実証産業組織論でも、ゲーム理論とデータ分析が融合した研究手法（ゲーム理論を活用してデータを分析する手法）は、企業のダイナミクスを理解し解明するのに欠かせません。いまや経済学部生にとって、実証マイクロ経済学と呼ばれるマイクロ経済学と計量経済学（統計学を含む）の基礎知識は必須となっています。求められているのは理論分析と実証分析の心構え（問い）と実証分析の3つの作法（手法）です。データ分析、対照実験、シミュレーションがそれです（理論と実証の融合アプローチ）。データから真実（相関関係でなく政策と効果の因果関係）を見抜く思考法がポイントです。多くの大学で、教育課程や学部・学科・専攻を再編し、デジタル社会を担う人材（データアナリスト）の育成に取り組み始めています。同窓生にも、文理を超えてデジタル社会の時代に必要なデータリテラシー（データ分析の基礎）を身に付ける先見性が求められています。

CONTENTS 07
REPORT

セキュリティの関係上、ホームページには公開致しません。

CLUB

サッカー部

今年の天皇杯千葉県予選は決勝まで進出し、学生のおこがれの場所である「フクダ電子アリーナ」での千葉県代表決定戦となりました。普段は観客としてしか入ったことがなかったスタジアムで、自分たちが実際にピッチでプレーする機会を得たことで、試合のメンバーからは、スタジアム入りする時から興奮が伝わってきました。

結果は残念ながら1-2で敗れてしまいましたが、この貴重な経験は彼らにとって一生の思い出となったはずです。

また、この試合にはたくさんのOB・OGの皆さまが応援に駆け付けてくださり、良い結



果を出せずに終わってしまいましたが、試合後に「夢を見させてくれてありがとう」「こんなスタジアムで後輩たちの試合を見させてくれてありがとう」と声をかけてくださったことは、チームの助けとなりました。

今年は教育後援会30周年事業の一環として、本学グラウンドにも400人が収容できる観客席が設置されました。この観客席のおかげでスタジアムのような雰囲気となり、在学生はもちろん、来学して下さったOB・OGの皆さまからも「我々がいた時代からは考えられない」と大変ご好評をいただいております。来年度もOB・OGの皆さまのご声援を心よりお待ちしております。

(監督 八津川義廣)

CLUB

空手道部

空手道部は、同窓会の皆さまをはじめ、教育後援会及び大学のご支援のもとで、体育会に所属して13年目を迎えました。今年度は

男子主将大石隼風(経済学科4年)・女子主将橋本青空(日本語学科4年)を中心に、昨年度の成績を上回ることを目指し、総勢37人(男子部員28人・女子部員9人)が精神面・技術面等の強化を図り、日夜稽古に励んで来ました。今年度の主な成績は、第62回関東大学空手道選手権大会(2019年10月27日開催)女子団体組手において強豪大学を次々と破り第3位入賞という創部初となる結果を残すことができました。次年度に向け新チーム体制となり、より一層チーム力の向上と精神面・体力面、技術面等を強化し、個人戦・団体戦ともに今まで以上に良い成績を残せるよう精進いたしますので、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(監督 上田 航)



TOPICS

サマーキャンプ

在学生・教職員共同で活発な議論

9月4日と5日の2日間、栃木県日光市の鬼怒川温泉で浦安キャンパス学生会サマーキャンプが実施された。これは日本人学生、外国人留学生、教職員等が互いの連帯感と本学への帰属意識を深め、ともに本学を発展させることを目的に毎年実施されているもので、学生・教職員ら約140人が参加、また、同窓会からは、升谷旭杜理事が参加した。

分科会では少人数のグループで「地域

交流について」「異文化交流について」「学生生活の充実について」の3つのテーマに分かれて活発な議論が行われた。国籍、学部、学年が異なる学生が意見を交わすことで、今までにない柔軟な発想や考え方がでてきた。また、こうして集まった意見を、翌日の報告会に向けて1つにまとめ上げる作業も学生が担当し、それぞれがグループの調整役を担ったり、リーダーシップを発揮したりする様子が見られた。

報告会では「地域交流のためにオープンキャンパスをより発展させて幅広い世代に向けたイベントにしたい」「明海大学は世界中から留学生が学びに来ている。大学内で各国の衣装を着たり、伝統料理の作り方を教えてもらう企画を実現したい」「学生と企業が直接的にマッチングできるよう

な仕掛けを作りたい」などといった意見が挙げられた。

最後に佐々木文彦学生部長から「学生、教員、職員、それぞれ立場の違う方々が参加して議論したからこそ素晴らしい会となった。ただし、本当に大変なのはここからで、立案してそのままではなく、ぜひ実現まで結びつけてほしい」と統括があった。大学の発展のため、今回挙げた提案の実現に期待したい。



立場をこえて盛り上がる議論

CLUB

女子硬式庭球部

今年度は1年生1人の部員が加わり4名となり、昨年同様少ない人数で活動がスタートしました。通常の学内での部活動に加え、土曜日は、他大学や高校生と練習、試合を行い色々なプレースタイルの選手と経験を積みました。

9月に行われたリーグ戦予選では、昭和女子大学を下し本戦進出。本戦1回戦では、東京経済大学に惜敗し4部昇格の道が途絶えてしまいました。OGの方々、ご父母の皆さま、毎年応援に駆けつけていただき誠にありがとうございます。

部員は4人でリーグ戦に臨む厳しさやプレッシャーもあったと思います。しかしキャプテンがチームをまとめ、1人ひとりが責任感を持って練習に励んだ姿勢は、今後につながると思っています。

来年、私はコーチ就任20年目を迎えます。今年の経験を糧に、来年こそ4部昇格を目指し日々の練習を頑張っていきたいと思っています。

(コーチ 小泉順一)



TOPICS

コミュニティサポート事業

【明海大OBウィナーズ】

(浦安市春季市民大会ソフトボール競技参加)

4/7 対サンライズ 0-7

(選手15人、応援2人)

4/28 対美浜ビーチボーイズ 8-4

(選手17人、応援3人)

5/19 対ブルーサンライズ 6-3

(選手10人、応援1人)

5/26 対見明川ヤンキース 0-15

(選手11人、応援1人)

毎回少しずつ違うメンバーですが、毎年多くのメンバーと交流でき楽しくプレーしています。秋季大会も2部での参加となります。



【軽音楽部アリーナOB・OG 10人】

6月15日、軽音楽部アリーナのOB・OGで、現役のころからお世話になっているライブハウス「本八幡ルート14」を貸し切り、ライブを行いました。

ライブハウスがオープンしてからは、現役生の部員たちや友人なども駆けつけてくれ、大変盛り上がるライブとなりました。そして、現役時代に戻ったような感覚で、ライブを楽しむことが出来ました。

ライブ後の打ち上げでは、各々の近況報告、現役生と卒業生の交流など、とても有意義な時間となりました。

このようなイベントを開催することにより、音楽を楽しめるだけでなく、世代を超えた交流もできるため、また開催したいと思いました。



【日本語学科OB・OG 14人】

今回集合したのは日本語学科の卒業生のグループです。

今までは2ヶ月に1度ほど、数人で集まり食事を摂ることはありましたが、このような大人数で集まるのは卒業後初です。

5月に仲間数人で集まったときに、小さな同窓会を開催してみたいという話になり、その日のうちに声掛けを行い、人数を増やしていきました。

今回非常に都合が良かったのは、参加者の多くがサービス業、接客業で働いていたので、平日に開催出来た点です。全員が何かしら役割を持ち、全員で作り上げる小さな同窓会の開催が出来ました。

当日は学生時代に思いをはせるとともに、近況報告を行うなど、理想としていた小さな同窓会の開催が無事に行えました。

また、参加者全員の恩師ともいえる、元外国語学部日本語学科教授の柳澤好昭先生にもお声がけし、ご参加いただきました。恩師、旧友、学生時代の上下を問わず、全員非常に楽しい時間を過ごせました。



CLUB

陸上競技部



陸上競技部は、同窓会・教育後援会及び大学関係者の皆さまのご支援の下で、体育会に所属し、3年目を迎えました。今年度の主な成績として、関東インカレでは、男子9種目・女子3種目に出場し、男子2部ハンマー投で1年生が7位入賞しました。女子ハンマー投では日本学生個人・日本インカレに出場しました。また、東北・北陸・関東と各県で勝ち上がり、地域選手権にも出場致しました。全体的には関東インカレや各県で上位入賞・出場者の数が増えてきておりますが、次のステージで活躍できるようトレーニングに励んでいきたいと思っております。陸上競技部はこれからも頑張っていきたいと思っておりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。(監督 川幡俊行)

REPORT

2019年度代議員会

5月11日、浦安キャンパスにおいて、2019年度同窓会代議員会が開催され、代議員38人と教職員14人が出席した。北原淳同窓会会長と安井利一学長の挨拶の後、新たに開設された「保健医療学部」藤内祝副学長・保健医療学部長が紹介された。

その後、同窓会の事業報告や決算報告、新役員の選出、新年度事業計画、予算案などが審議、承認された。

また、ブランディングサポートプロジェクトの進捗状況について報告があった。

